

協会けんぽ福岡支部における検診受診者への肝炎ウイルス検査勧奨の試み
(2 年目の報告)

研究分担者：井出 達也 久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門 准教授
研究協力者：大江 千恵子 全国健康保険協会
研究協力者：上村 恵子 全国健康保険協会

研究要旨

【背景】ウイルス性肝疾患は、治療法も確率しつつあるが、未だ肝炎ウイルス検査を受けていない国民も相当数存在すると考えられ、治療を受けていない例があるのが現状である。H29 年から協会けんぽの検診時に同時に肝炎ウイルス検査受検の工夫、勧奨を行っていることを報告し、それにより 10 倍以上検査を受けることが明らかになった。本年度はさらに、陽性者をフォローし、その受診状況についても検討した。【方法】肝炎ウイルス陽性が判明した例の受診状況をレセプトから把握し、受診していない例には、協会けんぽから受診勧奨のリーフレットや資料を送付し、その後受診したかどうかを検証した。さらにそれでも受診していない例には、再度受診勧奨を送付した。【結果】H29 年度 4～H30 年 3 月の 429,100 名の検診受検者中、62,843 名がウイルス肝炎の検査を受けた。うち、陽性者は 686 名であった。その後医療機関に早期(自主的に)受診した者は 108 名であった。その後資格喪失者など 46 名を除く、523 名に受診勧奨のリーフレットや資料を送付した。その結果、214 名が受診した。その後さらに受診のなかった患者 212 名に再度、受診勧奨を行ったところ 49 名が受診した。資格喪失者などを整理してまとめると、陽性者 448 名中、早期受診が 108 名(24.1%)、初回受診勧奨で受診したのが、214 名(47.8%)、再勧奨で受診したのが、49 名(10.9%)、放置が 77 名(17.1%)であった。【結語】ウイルス肝炎陽性者に受診勧奨を複数回行うことで、最終的には非常に高い受診率を得ることができた。今後はこれを継続し、さらなる問題点を抽出していく予定である。

A. 研究目的

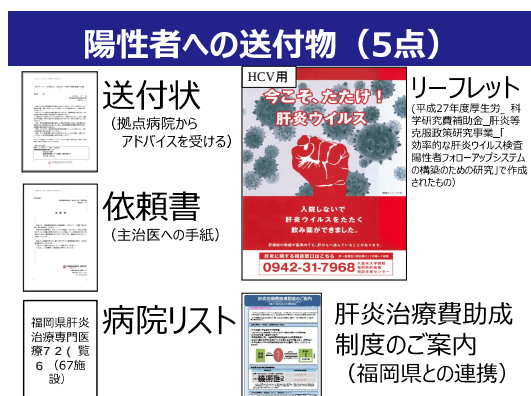
最近、ウイルス性肝疾患は治療法も確率しつつあり、とくに C 型肝炎ではほぼ全例で完治が得られる時代になった。しかしながら、未だ肝炎ウイルス検査を受けていない国民も多数いるものと思われる。一方協会けんぽは、日本最大の医療保険者であるが、福岡県でも 180 万人 8 万事業所をかかえている。検診時にウイルス肝炎の検査を勧奨するときには、リーフレットや声掛け

の工夫が重要であることを昨年度報告した。その結果これらの工夫により 10 倍の受診率となった。今回は、そのなかで陽性になった例をフォローし、受診していない例には、受診するよう勧奨を行い、そのことが有効であるかを検証することが目的である。

B. 研究方法

H29 年度 4 月～H30 年 3 月は 429,100 名の検診受検者中、62,843 名がウイルス肝炎の

検査を受けた。うち、陽性者は 686 名であった。この 686 名のうち、異動などにて資格喪失例 46 名を除き、640 名中、早期受診(3 ヶ月以内に陽性という結果を受け、自主的に医療機関を受診) 者は 108 名(16.9%)であった。残りの 532 名に、受診勧奨を行った。初回受診勧奨：1.送付状(受診を促すもの)、2.依頼状(医療機関を受診するときに使用する主治医への手紙)、3.リーフレット(「たたけ肝炎」;平成 27 年度厚生労働科学研究費補助金_肝炎等克服政策研究事業「効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築のための研究」で作成されたもの、4.福岡県肝疾患専門医療機関一覧、5.肝炎治療費助成制度を説明したものの 5 点(下図)を患者に送付し、受診勧奨をおこなった。



再受診勧奨：初回受診勧奨で受診しなかった患者に再度同じ受診勧奨を行った。

C. 研究結果

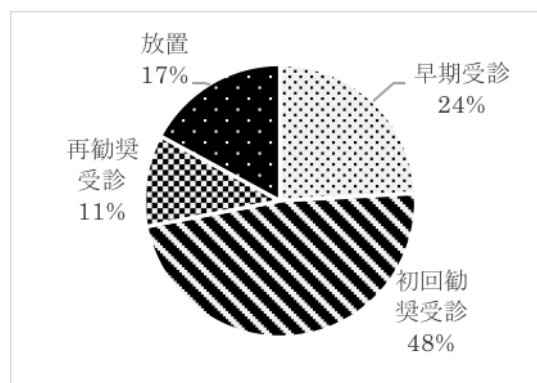
H29 年度 4 月～H30 年 3 月は 429,100 名の検診受検者中、62,843 名がウイルス肝炎の検査を受けた。うち、陽性者は 686 名であった。HBs 抗原陽性が 413 名、HCV 抗体陽性が 227 名であった(協会けんぽ資格喪失の 46 名を除く)。したがって検診者における感染率は HBV が 0.7%、HCV が 0.4%であった。その後医療機関に早期受診した者は 108 名

(16.9%)であった。

早期受診をしなかった 523 名に初回受診勧奨をおこなったところ、214 名が医療機関を受診した。この 214 名中、100 名が肝疾患専門医療機関を受診した。また 1 名が肝癌で手術を受け、26 名が抗ウイルス治療を受けた。

初回勧奨後に放置していた 234 名中資格喪失者などを除き、212 名に再勧奨を行った。うち 49 名が受診した。この 49 名中 32 名が専門医療機関を受診した。また 2 名が肝癌で手術を受け、2 名が抗ウイルス治療を受けた。

資格喪失者など整理し、まとめると、陽性者 448 名中、早期受診が 108 名(24.1%)、初回受診勧奨で受診したのが、214 名(47.8%)、再勧奨で受診したのが、49 名(10.9%)、放置が 77 名(17.1%)であった(下図)。



【成果】

今回の勧奨を通して、以下のようなことが明らかになった。検診にてウイルス肝炎陽性を指摘されても、受診する患者は少なく、勧奨することにより、受診する患者がかなり増加することが判明し、さらに肝癌治療や抗ウイルス治療を受けている例が多数あり、受診勧奨は検診において極めて有効な手段と考えられた。

D. 考察

今回の勧奨を通して、勧奨という介入がいかに重要かが判明した。実際福岡県の肝疾患相談支援センターである我々の相談窓口に問い合わせの電話も増えてきている。1例を上げると、受診勧奨が2回も来て本当に受診しないといけないのか等の電話相談があった。一方、放置している患者は17%であるが、これらの患者さんを医療機関へ受診させることは、これまでの勧奨方法では難しいと考えられる。さらに電話や面接といった手段も考えられないことはないが、かなりの手間の割には受診率の上昇も期待できないように思える。

福岡県ではまだ1%以上の肝炎ウイルス検査陽性者が存在することが明らかとなり、検診後のフォローアップの重要性が判明した。

E. 結論

協会けんぽにおける検診時ウイルス肝炎陽性の例に、受診勧奨することは、極めて有効な手段と考えられた。今後は非専門医に受診しているケースもあるので、適切な医療が行われているかも観察していく予定である。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

是永匡紹 井出達也 考藤達哉 職域肝炎ウイルス検査における「ついで・無料」の重要性 ～ パネルディスカッション 2「肝疾患の疫学・自然史と診療連携体制の方向性」 肝臓 59 suppl(1), A127. 2018

Korenaga M, Ide T, Korenaga K, Ohe C, Kamimura K, Fukuyoshi J, Kanto T. Tailored Message Interventions Using Social Marketing Approach Versus Typical Messages for Increasing Participation in Viral Hepatitis Screening Among Japanese Workers in the Medium or Small Sized Companies: A Randomized Controlled Trial. Hepatology .68.suppl (1). 577A-578A. 2018.

3. その他

啓発活動

井出達也：講演「C型肝炎 飲み薬でみんな治ってしまいます」市民公開講座、平成30年10月13日

主催：福岡県肝疾患相談支援センター

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし